



○「イノベーション」

徳島の夏の風物詩「阿波踊り」⇒

10月の本校2年生の四国研修旅行の行き先は、徳島と香川です。中学校の修学旅行や高校の研修旅行の行き先は、これまで多くの学校で企業や大学、歴史・文化遺産、遊興施設などが集中する都会地に設定してきました。コロナ下で、県内や地方に目を向ける学校や人も多くなり、その魅力や価値が再発見されてきています。



そもそも、現代社会においては、他者による評価、つまり社会が創り出した価値尺度によって、自己実現の達成度を評価してきた部分があると思っています。例えば、大企業の社長になることで成功したと自他ともに思うことなどです。他者評価が柱であり主体であるがゆえに、社会的に価値が高いとされるものが多く集中する都会地を人々がめざしてきた側面があるのではないのでしょうか。「東京で成功したい」という言葉を昔よく耳にしたのは、成功の尺度や要素、機会が都会地に多くあることの証左だと思っています。

しかし、これからの情報化社会では、人工知能(AI)により必要な情報が必要な時に提供され、その情報を上手に使いながら課題や困難を克服していく社会となっていきます。その社会において大事なことは、どこにいるかよりも、情報を正し的確に得て使うことだと思います。また、主体的に様々な分野のヒト・モノ・コトに関わりながら、分野を超えて様々な知識や情報を横断的に共有する人々がチームとして協働し、新たな価値を創出できるかだと思います。その中で見出した価値により、各個人が自己実現の判断ができるようになることが大切だと思います。

言いたいことは、既存の価値のもとで動くのではなく、これからの社会では、自らが、あるいはチームで価値を創り出して行こうとする姿勢が大事だと言うことです。必ずしも都会地でないと価値の創造ができないことはないこと。つまり、場所でなく人が大事だと考えています。

先日島根大学材料エネルギー学部が正式認可されました。物理や化学を学ぶ生徒が進学先に考える工学部系です。これは、島根から価値を創出して行こうとする強い姿勢のあらわれと思っています。島根大学のHPIには『エネルギー問題を解決するカギは「材料・素材」が握っていることを、あなたは知っていましたか？例えば飛行機。エネルギー効率のいい航空機エンジンが生まれるには、少ないエネルギー消費で高い性能を持つエンジン用の素材が開発できるかどうかにかかっています。「イノベーションの創出は材料が握る」と言っても過言ではないほど、材料の研究開発には、社会を大きく変える力があります。』と説明されています。

イノベーションは技術革新と訳されますが、モノ、しくみ、サービス、ビジネスモデルなどに新たな考え方や技術を取り入れて新しい価値を創出し、社会に大きな革新をもたらすことです。

来月からノーベル賞が発表されます。ノーベル賞は、科学技術の発展や平和に貢献した人に贈られます。青色発光ダイオード(LED)の開発でノーベル物理学賞を2014年受賞された米カリフォルニア大の中村修二教授は徳島大学の出身で、地元企業の日亜化学工業で研究をされたことが開発のスタートとなっています。地方からの価値の創出です。生徒のみならずもいろんな価値を、再発見し、イノベーションを創出する人になってもらいたいと思います。